

野生曰旅今之飢民采旅也皆謂不因播種自生之稻自生之稻必不稠茂故訓於路加於比也其比
豆知謂穫後再挺穗者非自生稻也開元十九年楊州奏魯生稻二百一十五頃再熟稻一千八百頃

其粒與常稻無異再熟稻可以充比豆知康熙字典引番禺志云稻再生曰稻孫亦是也

〔後漢書九〕建安元年八月癸卯是時宮室燒盡百官披荆棘依牆壁間州郡各擁彊兵而委輸不至

群僚饑乏尙書郎以下自出採稻稻音呂埤蒼曰稻自生也稻與稻同或饑死牆壁間或爲兵士所殺

〔類聚名義抄三〕椶栳ヒツチ〔同七〕稊俗莠字羊酒反稻音呂テロカオヒ

〔八雲御抄三上〕田略○中 ひとつち生也

〔藻鹽草三〕田儀

ひとつち田又生たる也かれ

〔運歩色葉集比〕椳ヒツチ米

〔書言字考節用集六〕秋ヒツチ再生者稻後順和名刈採之

〔日本釋名下〕食ヒツチ秋 稻の再生して實なるを云秋田をかり水をおとして後干土ヒツチより出てみ

ものなればひとつちと云

〔東雅十三〕稻イ子略 ○中 倭名鈔に○中 稻は自生稻也オロカオヒといふ俗にはヒツチといふと

註せしはオロカオヒは即自生也ヒツチとは乾土也舊説ヒツチは再生也刈れる田に生ふるな

りといひけり藻鹽刈たる田の水落しあとの土に生るをいふ也

〔物類稱呼三〕生植秫ヒツチ跡いれかりたる尾州にてひうちと云是は轉佐渡にてま、ばえといふ

伊勢白子にて二ばんごと云越前にてひとてといふ

〔倭訓栞前編二十五〕ひとつち 倭名抄に稻をよめり自生稻也と注せり歌にひとつちばともよめり

又しとせともま、ばえともいへり稻をかりし後に干土より再生するをいふ也よて稻孫とも